

第2回 サポーターカンファレンス

2013.12.8 (日) 9:30~11:30

出席者：

株式会社ゼルビア代表取締役	： 下川浩之
クラブ相談役	： 守屋実
事業本部長	： 大友健寿
運営担当	： 田口智基
広報担当	： 近藤安弘
町田ゼルビアを支える会事務局長	： 石黒修一
CURVA MACHIDA 代表	： 大城尊
LOS CUMBANCHEROS 代表	： 工藤賢一
FC 町田ゼルビアサポーター	： 約 120 名強

司会：松永敦

記録：小里綾子

第一部

(司会)：

本日司会進行を務めさせていただきます、町田ゼルビアを支える会事務局の松永と申します。

※議事進行、注意点についての説明については省略

(石黒事務局長)：

日曜日の朝早い時間にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。町田ゼルビアを支える会事務局長の石黒と申します。集会とメールにより皆さんの意見を集約したものを、クラブ側からお答えしていただきたいと思っています。昨日、全体練習が今シーズン最終日ということで拝見してきました。去る選手を見送るサポーターの姿も散見されました。毎年、この時期は切なく寂しい気持ちになるのですが、この時期を迎えなければ来シーズンは迎えられませんので、心を切り替えて、このカンファレンスが新たなシーズンを迎えるにあたってのきっかけになるように願っています。皆さんから頂いたご意見はA4サイズで20ページ以上にわたりました。今回はそれを要約したものをお渡ししていますので、お読みいただければと思います。先ほども申し上げたように、最終練習が昨日終わったということは、本日から来シーズンが始まっているということになりますので、この式が来シーズンに向けての我々サポーターの共闘の第一歩となりますように、本日はどうぞよろしく願いいたします。

(守屋相談役) :

おはようございます。このような場所でお話しさせていただくのも久しぶりで、立場が変わり、相談役ということで今はおりますが、自分としては立場が変われどクラブを愛する者としてクラブに役立ちたいと思い、やって参りました。

この際ですから少しお話をさせていただきますが、Jリーグの昨日の結果(サンフレッチェ広島の優勝)の件、サンフレッチェ広島さんは主力選手を抜かれながらもチームのスタイルを貫いて栄冠を勝ち取りました。大変私たちにとっても心強い、強化費もJ1では中位以下だそうです。その中であれだけの力が出せたという、サッカーというものはお金だけではないなど、みんなの想いが重なると、あんなにいいチームになるんだという思いで見えていました。

一方クラブの方はこの2年間、皆さんの期待に応えられず、また私たちクラブ側としても目標としたものが達成できず、本当に残念です。皆さんもそういう思いを抱かれてここに参加されていると思います。考えてみますと、クラブが出来て来年で25年になります。そして2003年にアスレチッククラブ町田が出来て、町田サッカー協会から、ゼルビアがNPO法人アスレチッククラブ町田に移ってちょうど10年になります。この流れの中からは、この2年間はもしかするとクラブの転換期で、もう一度何かをやり直さなければいけない時期だったのではないかと、思っています。

2003年にNPO法人を作って、上を目指しましょうということで始まったわけです。この前にこのクラブは、1996年に町田にJリーグチームを誘致する会が出来て、1997年のサッカーフェスティバルではゼルビア町田(※当時のパンフレットに記載された名称)となっていた。それからゼルビアという愛称が付きまして。上を目指してきたクラブとして自分が関わっている内にJリーグに行けるとは思っていませんでしたから、そういう中で昨年J2に上げて頂いたということは、クラブとしてはすごい結果を残したと思ってきました。ただ(それと同時に)、今までの形そのままではもう無理というところまできているのではないかと思います。それは、私が思うには2003年の頃は、竹中さんらクラブはフロントもスタッフも一色端で組織が集まって、小さいこともあり、ある意味非常にまとまりやすい組織でした。当時はゼルビアと言うだけでは市役所は相手にしてくれない、野津田の競技場を借りるなんてとんでもない、と。私もよくスポーツ課に行きましたが、社会人チームはゼルビアさんだけではないからと言われ、まったく相手にされない、といったことがありました。その中で私たちは何をしてきたかという、このチームが町田にあるという存在感、あってよかったと市民に思ってもらえるような活動をしてきました。ふれあいサッカーもその一つです。クラブの理念は、地域の発展に貢献しましょう、子供たちの成長に寄与しましょう、そして地域の皆さんの誇りになるようなクラブになりましょうということを目指してやってきましたけれども、特に子供たちに関しては、選手と触れ合ったりしながら、随分いろいろな活動をしてまいりました。そういう地道な小さな活動を続けていくことで、少しずつ行政も変わってきて、成績もよくなり、だんだんとチームの存在感も増してきました。そうやって小さいながらも市民クラブとしてやってきたクラブが、ここへきて、組織をもう少し立て直さなければならないだろうというときに来ているのだと思います。職員も随分多くなりました。また、昨年あたりは空いたときはグラウンドに行き、選手の名前を覚えに行かなければならない、そういう状況です。ですから、もう組織が大きくなってきて、理念なり、みんなの思いが一つになったかという、正直そこまでの自信がありません。皆さんが、クラブの理念はどうなってるのか、チームの一体感はどうなっているのか、そういう心配をされていることは、クラブの中にも同様にあった。組織としては、株式会社があり、NPOがあり、

またチームは専門家であるプロの監督が見る、この3つが本当に一体感を持っていたかという、決してそうではなかったのではないかと思います。またチームも関東リーグの時代から戦ってきたメンバーが中心になってやってきましたが、今年は柳崎が去り、もう当時を知っている選手、働きながら上を目指していた選手は全員チームを去りました。そういう中で、今までやってきた想いをどうやって選手たちにつないでいくか、私は一番そこが難しいところだと思っています。出来たところにポンとプロとしてやってきた選手に、我々が何も無いところから地域の人たちに喜んでもらえるチームにしてきた、そういう想いというものをなかなかずっと伝えていくことは難しい。それがこれからの一番大切なところではないかと私は思っています。ここからは私の考えですが、そういう中で想いを持った人たちがこのクラブを背負っていく。それは、ここにいる大友しかり丸山しかり、育成は竹中、普及は酒井といった元選手から来た人たちです。そして厳しい想いや大きな目標を持って一緒に戦ってきた人たちであり、この人たちにこのクラブを背負ってもらおうと思っています。それが現場へその想いを、DNAを伝えていく最良の方法であり、間違いなく彼らはその気持ちも情熱も力も持っているメンバーだと思っています。

もう一つ、ここにきて見直さなければならないのは、育成の件です。J3リーグができますが、J3の中でもうちは優れた育成組織ではないかと考えています。またJ2の中でもおそらくユースは中位よりも上には行けるのではないかと思います。J2の下位に比べて多くのスタッフ、またトレーナーも置いていますし、それだけ育成に対してお金を掛けているわけですが、周りに多数のJクラブがある中で、J3の私たちが育成で存在感を示すことはある意味大変なことです。皆さんの目には見えていないかもしれませんが、着実に育成は変わってきています。私はもともと育成が自分の仕事だと思ってやっていますが、スタッフの熱い話し合いを是非皆さんにはご覧になって頂きたいくらいです。私たちはジュニアを持っていませんが、町田の中でジュニアを持ったらどうなるのか、ほかのクラブからゼルビアを応援してもらえるようになるのか、といったようなことを時間を掛けて討論しています。指導の方法についても皆で勉強したり、それは凄く熱いものがあります。ですから、近いうちに必ずトップで活躍するような人材が出てくると思っていますし、また出さなきゃいけないという想いでいます。

それから、私が今の立場でできることとしたら、ゼルビアファミリーを増やすことだと思っています。個人的には、女子のチームに力を入れていきたいと考えています。私は50年後100年後の未来を考えたとき、女の子にももっともっとサッカーを好きになって欲しいと思っています。ふれあいサッカーにも今年から女子だけのコーナーを作りました。それから女子のスクールも始めました。小さい芽だとは思いますが、そういう小さなことを続けていくことが、ファミリーを広げることに繋がっていくものだと考えています。そういう意味では、皆さんも出来ることはあるし、私にも出来ることはあります。そうやって皆で力を出し合って、胸を張って「俺らはゼルビアのファミリーだ」と言えるようなクラブにしていきたいと今は思っています。皆さんから見ると不甲斐なかったり、至らない部分もたくさんあると思いますが、私はこのクラブで育った人材がこのクラブを背負っていき、そして皆さんと一緒にそういう人材をサポートしていき、他の地域にないような、ゼルビアらしい、クラブを作りたいと考えています。もう少しこのクラブで頑張っていきたいと思いますので、そのために皆さんの力を貸してほしいと思っています。是非よろしくお願いします。

(司会) :

寄せられた質問については、大きく分けて6つのテーマに分けられている。以降、各テーマに沿って回答をいただく形とする。

【1】サポーターとのコミュニケーションについて

※質問内容については質問書1ページ目参照

(大友事業本部長) :

前回のカンファレンスでももっとコミュニケーションを、という意見を頂いていました。今年は少しでもそういう機会をとということで、正式な場という形ではありませんが、半分はプライベートとしてというところで広報の近藤が支える会の皆さんとも上手く連携をとって、ざっくばらんな話し合いの機会を持つことができました。そういった意味では今まで出来ていなかったことが出来るようになったと思っています。本日もこの後にHUB町田さんに話をさせて頂き、懇親会を開催する予定となっています。シーズン中に正式な場を作るかどうかといったところは今後の検討要素ですが、ざっくばらんに話ができるところから、今後も機会は増やしていきたいと考えています。

続いてクラブの経営状況になりますが、クラブライセンス制度がありますので、債務超過、あるいは三期連続赤字となった場合はすぐにJリーグから退かなければなりません。それは他のJリーグクラブも同様にしっかりやらなければならないという状況で、(他クラブの)選手の動向等々を見ても、そのような状況は見取れる部分になります。「身の丈経営をしなければならぬ」ということは、常にしっかり見据えており、まだ正式な数字は出ていませんが、黒字で着地はできそうな状況です。広告料収入、入場料、グッズ販売といった大きな柱がある中で、常に会社として黒字経営は意識して実施しています。また、どこかで無理をする必要があることも認識しています。例えば、J2で安定して「ここでJ1だ」というときには、いい選手をとる、というアクションになるかと思しますので、そういうことも安定した経営をする中では、チャレンジするという時期も必要だと考えています。

次にクラブの理念や展望に関してですが、クラブの理念としては先ほど守屋が申した通りでそこが動くことはありません。中長期的な観点では、町田市、行政、皆さんを巻き込んだ形でしっかり連携をとりながら目に見える形にしたいと思っていますが、「2020年にはJ1を目指したい」という目標で、市長にも話をしています。この目標は2020年のオリンピック開催が東京に決定する前に市長には話をしています。ただこれは非常に大変な目標であり、昨年クラブはJ2で予算が約5億円ということで、予算的にはJ2の中では最低でした。やはりJ2で安定するためには10億円くらいの予算がないと戦えない、そしてJ1のクラブの平均は約30億円ですから、J1を目指すにはそれくらい必要になると考えています。従って、クラブとしてもっと(収入を増やすために)頑張らねばと思っています。とはいえこの目標については、タイミングを図りつつ、文字にして皆さんと共有していきたいと考えています。

【2】来年度の集客について

※質問内容については質問書1ページ目参照

(大友事業本部長) :

1万人集客に関しては、アルビレックス新潟さんがどのように集客してきたかをJリーグの中野専務にお越し頂いて、勉強いたしました。まずは一回スタジアムに来てもらうことで、各団体に丁寧に丁寧に声掛けしたほうがいい、というようなアドバイスを頂きました。そしてまずは初戦に1万人入れようということで町田市と連携して、ご招待、お声掛けなど1万3千人位に対して実施しましたが、いざ蓋を開けてみると、初戦は約7000人という結果になってしまいました。スタジアムを満員にしたいという思いをもって、焦ってJリーグにも相談したりしてやってきましたが、強引に、というよりは丁寧に丁寧にお声掛けを続けていくことが大事であるとのこと、今年は町内会レベルまで落として、地道に実施してきました。または、頼るわけではありませんが、アウェイのお客様にも来て頂くことも大事だと思いますので、逆に皆さんのお力やアイデアを頂きながら、やっていきたいと考えています。よろしくお願ひいたします。

アンケートについても分析をしていますが、やはりスタジアムへのアクセスの部分についての意見が集中しています。その中で今年に関しては神奈川中央交通様のバスが路線化したということが大きな第一歩でした。そして今後の展開に関しては、野津田公園の第二次整備計画のなかで皆さんが望んでいる駐車場が増えるのかということは、我々が、というよりは市民の声として町田市に挙げていくことが、一つの手段ではないかと思っています。あとは、発足を予定している後援会の準備金でトライアルで山崎団地から後援会バスというものを試験的に実施しましたが、後援会というところを巻き込んで少しでもアクセスを改善すると同時に、今後も丁寧に丁寧なお声掛けに取り組んでいきたいと考えています。

司会 :

その他の質問についてはこの質問書、嘆願書に記載されているので皆さんに一度目を通していただきたい。

【3】町田市立陸上競技場アクセスについて

※質問内容については質問書1ページ目参照

(大友事業本部長) :

先ほど申し上げた内容と重なりますが、団地経由のバスを出すことも後援会と連携してやっていきたいと考えています。例えば藤の台団地に寄って山崎団地に行ったら、バスが満員だったらなど、難しい問題もありますが、町田市が求める団地活性のこともありますので、今後も取り組んでいきたいと思っています。山崎団地まではツインライナーも町田駅から走っていたりするので、ツインライナーに乗って山崎団地まで来ると後援会のバスが待っていて、野津田まで連れて行ってってくれるとか、そういうような仕掛けをやっていけたらと考えてはいます。また、野津田公園への直行バスに乗ってこない方の意見を踏まえると、鶴川駅まで行くことが面倒だという方が多くて、行きつくところはやはり団地とかそういうところからの直行のバスが出る

というところが結論になってきています。とはいえ、無料でバスを借りるわけにはいかないの
で、優先順位を付けながら、そういう方々を運んでいきたいと考えています。

アウェイの方たちの案内が不足している、ということはスタジアム内の話でしょうか。

(司会) :

野津田(スタジアム)自体の案内もそうですが、逆に野津田車庫のバス停から山登りをしてみ
たい、という方への案内がないといったような意見もありました。

(大友事業部長) :

アウェイのお客様はやはりゼルビアのホームページを見て情報を得るとというのが一番の手段だ
と思いますので、表現の仕方は検討しますが、“一度山登りをご体験ください”というような
PRを促すなど、工夫できるところは工夫してやっていきたいと考えています。

あとは、町田市の観光コンベンション協会さんなどとも連携することが、町田に来てみたい
と思う人を増やして行く一つの手段になると考えています。コンベンションさんには、ホームゲ
ームとアウェイも予算がある限り、町田の出店をやって頂いたりしているので、そのあたりの
連携は続けていきたいと思っています。先にアウェイに行って町田をPRする、といったところもよ
り必要なのかなと考えています。

【4】地域活動について

※質問内容については質問書2ページ目参照

(大友事業本部長) :

ふれあいサッカーについては引き続き実施していきたいと考えています。試合時間との兼ね合
いもありますが、(ふれあいサッカーが)出来る試合ではやっていきたいと考えています。

(選手のホームタウン活動について) ひろめ隊とゼルビーのホームタウン活動を活発化させま
したので、選手が出てないように思われがちですが、選手が出る回数については毎年数えてや
っております、減っていることはありません。今のところゼルビーがお祭りなどのホームタ
ウン活動に行くと、子供たちは選手よりもゼルビーのほうに行ってしまうという現象が起きて
いて、選手たちにもっと自分をPRしてほしい、と思うところはあります。しかしながら、やは
りプロの選手は子供たちのあこがれでもありますので、引き続き選手と一緒にホームタウン活
動を続けていきたいと思っています。

また、ひろめ隊の活動についてお褒めいただいたことについては酒井に伝えておきます。

【5】告知・PR・情報発信について

※質問内容については質問書2ページ目参照

(大友事業本部長) :

前回のカンファレンスの際に、怪我の情報、クラブの考えを発信するというものでありますが、選手の怪我の情報に関しては、毎年、強化部それから監督の考えがある中で相談しながらやっていきたいという部分があります。要は怪我をした、という情報を相手チームにも見える形出すべきか、という部分になってくるかと思えます。今年に関しては、控えようという形になりましたので、私たちの立場としては、こういう声があるということを引き続き調整しながらやっていきたいと考えています。また社長の声という部分については、節目節目の際にということをお願いはしていますが、(手段として)ホームページでという形がいいのか、といった部分に関しては再度検討していきたいと考えています。モバイルサイトの件もどこまで改善できるかという部分がありますが、引き続き検討していきたいと考えています。

ホームページの誤字脱字の件については、非常に申し訳ないと考えています。前回のカンファレンスでも情報を出すのが遅いのではないかと、というようなご意見も頂いていたので、各担当に任せてまずはスピードをアップしようという試みを優先的に行いました。チェック機能が甘く、(結果として)誤字脱字が多いという部分については、誠に申し訳ございませんとしか言いようがなく、引き続きスピードは上げなければならないと思っていますので、チェック機能と言いますか、社員の意識を上げていきたいと考えています。また、誤字脱字についてはすぐにご指摘いただけるとありがたいので、よろしくお願いします。

会報誌が届いていない件については、漏れがないようにやってはいますが、もし誰々さんに届いていないということがあれば、早急に対応しますので是非情報を頂ければと考えています。

チラシ配り、ポスター活動については、支える会の皆さんを中心にマンパワーに頼っている部分がありますので、こちらも後援会が発足すれば、組織的なポスター配布などの活動も徐々に出来てくるのでは、と考えています。マンパワーで賄えきれない部分を組織的に落としていく、というところも是非チャレンジしていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。是非サポーターの皆さんと一緒に、町田を蒼く染めるという活動をしていきたいと思っていますので、アドバイスなどを頂ければと考えています。

【6】行政との協力について

※質問内容については質問書2ページ目参照

(大友事業本部長) :

今年に関しては、国体推進課との絡みが非常に多かったです。町田市としても国体で人を集めたい、ということもありまして、まずは国体を窓口にしてという動きの中で、国体とは上手く連携できたのではないかと考えています。町田市（で開催した競技）に関しては、観客、ボランティアの数ともに群を抜いており、非常に行政としては成功だったというような国体招致だったと聞いています。また、ゼルビーが野津田の国体の試合で選手と一緒に写真を撮るなど、そういった連携もできましたので、そういう部分では新しい試みであり、今年に特化したものではありませんが、上手く（国体と）連携できたのではないかと考えています。ハードの部分については、時計台ができたとか、鶴川駅前のモニュメントができたことは、こちらも国体との連携ができた成果と考えています。

ホームゲームの野津田の使用に関しては、改修工事については2月末には終わる見込みと町田市のほうから答えを頂いており、3月の開幕には間に合うことになっています。従って全試合、町田市立陸上競技場で実施できると考えています。

練習場、クラブハウス、スタジアムについてになりますが、冒頭お話しましたように（Jリーグには）クラブライセンス制度がありまして、J2のクラブでもクラブハウスがあって、その横に芝生の練習場がないと駄目ですよ、という制度が、いつ適用されてもおかしくない状況下ですので、行政に対しては、できれば第二次の野津田公園の改修計画の中に芝生の練習場、クラブハウスが作れないかということは、サッカー協会とも連携しながら意見としては上げており、行政に対してお願いしている最中です。また2020年のJ1への昇格を目標とすると、逆算していつまでに何をという話になり、市民の声が一番大事なわけですが、そういう話も町田市には伝えています。そうするためには、話は戻ってしまいますがゼルビアのホームゲームで野津田陸上競技場を満員にする試合を作っていくことが、一番効き目があるのではないかと思います。最終的にはやはり集客の部分をしっかりやっていくことが大事になるかと思いますが、計画については紙ベースのものを町田市にも渡しておりますし、我々も把握している状況です。

第二部

【質疑応答】

Q（質問者A氏）

アクセスの件で1点だけ質問がございます。駐車場の問題ですが、我々ホームのサポーターについては構わないのですが、アウェイサポーターに対して駐車場がないことは、集客にかなり影響があります。例えば、アウェイの観戦券に駐車券を付けたものが販売できないかと。台数に限りがあるかもしれませんが、アウェイサポーターも必然的に車での観戦が可能ということになるのではないかと思います。是非実行して頂ければと思います。

A（田口運営担当）

結論から申し上げますと、条例上、チケットに（駐車券を）つけてということが出来ないということですので、現状では実施が難しいという状況です。万が一出来たとしても、アウェイのサポーターの集客も大事ですが、クラブとしてはどちらかというとホームのサポーターの皆さまの利便性を優先したいと思いますので、もし出来た場合は先に皆さま向けにご提供したいというところが正直な気持ちです。

Q（質問者B氏）

今の質問に付随しますが、アウェイのサポーターに限らず、サテライト的な駐車場が出来ないのでしょうか。例えば、小学校などに駐車用のスペースを確保してもらって、そこからシャトルバスを出すなど、結構いろいろなクラブがそういった活動を実施しているので、そういう感じの工夫が出来ないかと思います。場合によっては、出来るかどうか分かりませんが市役所に例えば100台ほどの駐車スペースを確保するなどといったことも出来ないかなと思います。やはりアウェイのサポーターに聞くと、駐車場がないので不便だと言われ、アウェイのサポーターは何名かのサポーターと便乗して車で、という話をよく聞きますので、是非検討していただけたらと思います。

A（大友事業本部長）

パーク&ライドが出来ないかということは常日頃考えており、先ほどの後援会バスを利用することも検討しています。また廃校になった学校などをその日だけ駐車場に利用できないか、というようなことは既に町田市にも投げかけていて、また自治会、町内会にも相談しているところですが、如何せんやったことがないことをやることに時間が掛かっているところで、本当にすぐにやりたい気持ちはありますが、今は相談しているところ、といった状況です。

Q（質問者C氏）

来年も小田急様がスポンサーになるという前提で、アウェイのお客様の集客のために鶴川駅にロマンスカーを臨時停車するとか、急行の臨時停車ですとか、またそれに合わせて神奈中様にツインライナーを運行していただけないか、などといった働きかけがクラブとして出来ないのかな、と考えています。

A（大友事業本部長）

やりたいです。是非やりたいです。今は、まず鶴川駅をセルビア色に染めたいなと思っていて、まず駅の構内を飛田給駅のようにできないかという話は、小田急電鉄様のほうにはお願いしているところです。まずは（鶴川）駅を青く染めるといったところから入り、是非ツインライナー、ロマンスカーといった話についても小田急電鉄様にはお願いしていきたいと思っています。あとは来シーズンもよろしくお願ひします、ということを引き続きお願いしていきます。

Q（質問者D氏）

練習グラウンド（小野路公園グラウンド）の整備計画等があれば教えてください。

A（大友事業本部長）

totoの助成金を使って整備しており、5年で（人工）芝をメンテナンスをするということが基本計画ですので、あと3年はグラウンドに関してはそのままの予定です。

Q（質問者D氏）

例えば見学者のスペース、観覧エリアについても、例えば保育園や幼稚園の園児が少し落ち着いて見られるようなスペースがあれば、そういう整備計画が持ち上がると下の層にもアピールになるかと思っておりますので、よろしくお願ひします。

A（守屋相談役）

小野路グラウンドについては、ご存知かもしれませんが、本来町田市が人工芝、スタンドを整備するという計画が出来ていました。しかしながら、私どものNPO法人がtotoの助成金を頂いた関係で、NPO法人の資本を投資して練習場を作ったということです。また石坂市長からは、南側の斜面にはスタンドを作りますと表明しており、計画もあることから、できるだけ早く市に実施していただくよう、要望しているところです。今のままだと落ち着いて見られるスペースがないことについては認識しています。

Q（質問者E氏）

ザスパクサツ群馬の関係者と話す機会があったが、（当初ホーム最終戦のスタジアムが未定であることから）入れ替え戦がもしあったらどこでやるのか、という話がありました。やはり入れ替え戦の場所が決まっていないということは、他のサポーターから見ると、ゼルビアは昇格する気がなかったと捉えられても仕方がない状況であったかと思います。そういう意味でも、今後は工事の関係で野津田で出来ないことも有り得るかと思いますが、野津田以外の第二ホームゲームという位置付けのものをどこかしらに設置するという考えも必要ではないかと思いますがいかがでしょうか。

A（田口運営担当）

入れ替え戦があった場合の会場については、実は確保できていました。野津田以外の場所でのホームゲームの会場ですが、現状ですと町田市内には野津田しかないというところもありますので、（町田市のみをホームタウンとするクラブとして）町田以外で第二のホームスタジアムは持たず、基本は野津田で全試合と考えております。しかしながら、工事等で野津田が使用できない場合については、都内（全域）で会場を探すというような方向で考えています。

Q（質問者F氏）

地域活動についてお伺いしたいのですが、星さんとゼルビーが今年の夏にすごく活躍していたのを目の当たりにして心強いなと思っていたのですが、トップの選手たちの活動のほうが少ないかなと感じています。例えばプレミアリーグであれば、週3時間の地域、ボランティア活動といった内容が契約書に必ず含まれていたりするのですが、今季ゼルビアのトップチームの選手たちについては、それほど多く出てきたという印象が私にはありません。このあたりはもし何か体調の面であったり、スケジュールの面であったりとか、障害になっている部分があるのでしょうか。やはり、トップチームの選手たちが（直接）少年に会ったり、地域の方々に夢を与えて、スタジアムに来てもらう流れは重要かなと思います。認知は出来ているけれども誘導が出来ていないというのが現状で、その辺りが突破口になるのではないかと思うところがあるので、考えをお聞かせいただければと思います。

A（大友事業本部長）

おっしゃる通りだと思います。もちろん選手のコンディションや練習スケジュール（といった制約）がある中で、ホームタウン活動の件については契約にも書いていますが、こちらとしては出来るだけよい環境を整えてあげたいという気持ちがあります。ただ、現場に行って誰もいないところで何かをさせるというのも意としておりません。しっかりとした設えを我々が作って選手を出し、その数を増やしていきたいと考えています。

Q（質問者G氏）

集客で重要なのは、ソフト面とハード面と両輪があると考えています。ハード面について、例えば野津田で家族連れで観戦に来た時に、天候が良ければあまり問題はないですが、雨が降っている、暑い場合などの悪天候時に退避できる場所が整備されていればと思いますが、何か考えられているのでしょうか。

A（田口運営担当）

雨の日や晴れた夏場の日については、ご来場いただいた方々の体調は非常に気になるところで、そのようなことは常に考えてはいます。屋根があるような建物を作るとかということは計画にはありませんが、テントなどを立てて皆さんに過ごしやすい環境を整備するといったところで対応していこうと思っています。

Q（質問者G氏）

悪天候時は強風が吹きやすいことを考えると、テントを立てる対策は逆に問題があるのではないのでしょうか。

A（田口運営担当）

雨風、特に風が強いときには当然テントは立てられないですし、雨風がしのげる場所となればコンクリートの壁と屋根が必要になると思いますが、今のところ申し訳ありませんがハード面で対応できる策がないというところで、今後J1基準を満たすスタジアムの整備計画のなかで、行政と話をしながら進めていきたいと思っています。

Q（質問者H氏）

鶴川駅のほうから今は応援の直行バスが出ていると思いますが、町田駅でしたら急行も止まり、利用客も多いというところから、（町田駅周辺を）ゼルビアブルーで歩いているところをもっとほかの方にも見てもらえるのではないのでしょうか。その意味でも、町田駅からも応援（直行）バスを出してもらうことは、不可能なのではないでしょうか。

A（大友事業本部長）

神奈川中央交通様に町田駅から野津田公園までを路線化して頂くことが最良かと思いますが、直行バスについては後援会のなかで考えていきたいと思っていますが、帰りのバスの渋滞等を考慮すると、バスが時間通りに循環しなくなる可能性があり、台数をかなり増やさなければならず、そうすると費用の問題も発生することから非常に悩ましいところです。まずは50人でも100人でも運ぶ、ということを目指して、後援会と検討していきたいと思っています。

Q（質問者 I 氏）

町田駅からの直行バスの実現は難しいというのはわかりますが、登山のためだけに、玉川学園の小型バスなどを回したりすること（お借りすること）ができないか、ご検討いただけないでしょうか。

A（大友事業本部長）

野津田の整備計画にも絡んでくると思います。野津田車庫のバス停からの道路については現状バスは走れませんが、道幅を広くして頂くなどして、野津田車庫から山登り（登山）バスを循環させるというようなアイデアとして、市のほうにも依頼を掛けたいと思います。

Q（質問者 J 氏）

クラブ側からサポーターにこういうことをして欲しい、というようなことがありましたら、せっかくこのような場でもありますので、素直なお気持ち、ご意見を言っていただければと思います。

A（大友事業本部長）

素直な意見を申し上げますと、皆さんにパートナー企業を見つけてきてほしい、というところがあります（会場笑）。また、仲間をひとりでも多く一度スタジアムに連れてきていただくことと、初めて野津田に来た人がゴール裏を見たときに、ゴール裏をカッコイイと思ってもらえるような雰囲気作りとか、是非そういう部分でお力を頂けたらと思います。

Q（質問者K氏）

ホームページに関するのですが、現状、通常のホームページとモバイルサイトとで運営されていて、去年のカンファレンスにもありましたが、主にモバイルサイトの収入でホームページを運営している形と聞いていますが、皆さんもモバイルサイトのほうに不満が多いかと思いません。例えば、ニュースとトピックスにほぼ同じ内容のものを掲載されていたり、問い合わせページがすぐに見つからないような構成であったり、そもそも「定期広報誌を送付しました」等の基本的な情報が掲載されていなかったりしますので、見る側の目線に立ってホームページの運用ができないか、と思っています。また、パートナー企業を集めてほしいという話がありましたが、例えばいくらくらいからならスポンサーになれるか、看板を出すにはいくらなのか、といった具体的な情報があれば、勤め先の会社の広報等に掛け合うこともできると思います。ということで、もう少し見る側の目線に立ったホームページの作りとしていただければと思います。具体的には、カテゴリー別、目的別に分けた作りにしたほうがよいのではないのでしょうか。

A（近藤広報担当）

ホームページ、モバイルサイトの改善については皆様からいろいろなご意見をいただいている、去年からも進めており、今後も努力をしていきたいと考えています。具体的には社内に戻って、いろいろと整理した上で検討したいと思いますが、現在の方針だけを説明しますと、ホームページのほうは無料での情報発信、モバイルサイトのほうは、極力コラムであるとか、選手へのインタビューであるといった、いわゆるコンテンツに特化したものへシフトしていくことを考えています。また、会報誌の発送状況については、今後ホームページで公開する方向とします。

A（大友事業本部長）

パートナー企業になるための数値の公開については、数字を出すことで企業によってはいろいろと事情もございますので、可能であればセールシートを紙媒体でお渡しすることで対応したいと思います。

(司会)

嘆願書をLOS CUMBANCHEROSの工藤代表が読み上げ、下川社長へ提出します。

(工藤)

我々はFC 町田ゼルビアを心より愛し、応援する者です。

2013年のシーズンはチームの結果、内容ともに十分なものが得られなかったと感じております。大変失礼な表現ですが、チームのスタイルや強化に対して一貫性を保てずに迷走しているような印象がありました。そのような状態では我々サポーターも不安な思いを募らせるばかりです。そこで常日頃よりチームに対して考えている事を出し合い、別紙のように纏めました。

本来、サポーターがチームの在り方に細かく要望を出すべきではない事は重々承知をしておりますし、百人百様の考えを押し付けるような意図もございません。

フロントスタッフの皆さまは現時点で来シーズンに向け日々選手獲得に奔走していらっしゃるかと存じます。また既にチーム作りに邁進しておられると推察致します。その作業の際に少しでも本書の事を思い起こしていただき、サポーターの熱意を感じていただければ幸いとの思いからです。

チームがあつてのサポーターです。我々もクラブと共に考え悩み、苦楽を共にするような関係を構築していく所存です。

どうぞご一読のほど宜しくお願い致します。

また、育成の街町田と言われていましたが、現在のゼルビアにおいて、若い選手の契約満了や引退という現状において、悲しみを抱いております。

選手が大幅に入れ替わった今シーズン、酒井さんの引退に伴い、チームをまとめる役として、太田選手に係る負担が大きかったと感じております。これからJ3という舞台で戦う上で、これまで以上に厳しい舞台で戦う上で、チームの継続性やそのために仲間に気を配り、信じる心を持った人間が必要と感じております。

個人の感情やお金の問題だけではなく、心の通ったコミュニケーションを図っていただき、今本当に誰が必要なのか、今一度考えていただければ幸いです。

以上、2013年12月8日、FC町田ゼルビア サポーター有志一同より

【クラブの強化方針について】

(下川社長)

おはようございます。たくさんの方々にカンファレンスにお越しいただき、ありがとうございます。

今年は皆さんもご存知の通り、Jリーグから理念推進費ということで、5,000万円という多額の費用を頂き、Jリーグの理念のために携えてくださいと、これはJ2から降格した初のチームということで、Jリーグ側からお受けして頂いたものになります。細かい内容については、ほとんどがトップチームで使える部分がなく、実際に厳しいという状況のなかでスタートさせていただきました。

昨年、J2という舞台に立たせてもらって、去年の11月11日に野津田で大変辛い思いを皆さんと一緒に感じ、来年こそはという思いで天皇杯から秋田監督を招集して、今までに足りなかった闘うという強い姿勢を持ったチームを作りたいということから、秋田監督で早いスタートを切らせていただきました。

今シーズンは、前期を終わった時点で3位につけていたのですが、なかなか思うような試合ができず、前期の最終戦の長野戦で大敗をしました。J2の時にはなかなか監督を替えるといったことができず、オズワルド・アルディレスという立派な監督が来てくれていましたが、果たしてそれが町田にあったのか、つまり選手の質と監督とのレベルの違いから、望んでいたものがなかなか発揮できなかったというところで、最後まで私たちフロントとしてはその形を崩さずに、監督を替えるという決断をせずに最終説節までやってきました。というような去年のこともあり、今年に関しては早めに決断致しました。皆さんも同じ気持ちだと思いますが、何かをスタートさせたり変えるというときに、良い方向にしようと思って実行するわけです。それが結果的には、S.C.相模原さんに最終戦で負けて4位に終わりました。結果については、いろいろな意味で勝負の厳しさも味わい、選手がまだまだ足りないところがあったり、私たちフロントの力がなかったりということもありました。

私は株式会社ゼルビアを5年前に預かり、経営させて頂いています。これが個人の会社であれば好き勝手出来るところですが、企業経営というのはそういうものではなく、サッカークラブも全く同様で、会社が無くなれば倒産ということになります。倒産してしまったら皆さんが悲しい思いをしますし、私たちは町田の子どもたちに夢と希望をとということで立ち上げて25年間、守屋相談役の下でやってきたものを、ここで崩すわけにもいきません。皆さんの想いは毎年毎年強くなっていて、今日も本当にたくさんの方が来ていただいています。例えば今年のJFLの戦いでも、町田のサポーターの皆さんは、沖縄や秋田、大分といった遠方にも関わらず100人、200人、300人と来てくれる。やはりそういう想いが強いからだと感じています。

今年については失敗した、とは思っていませんが、勝てなかった、そして一番最初に掲げたJ2に復帰する年とするということでやったことに関しては、力不足で本当に申し訳ございませんでした。本当に皆さんと同じ気持ちで悔しい思いでいっぱいです。けれども前を向いていくしかありません。

つい先日新監督の発表があったかと思いますが、もう一度2010年の相馬直樹を戻して強いチームに立て直そうと思っています。もちろんフロントの方も変わっていきますし、強化のほうの

人材も来年は変更がこれからなされていきます。それはクラブをやはり根本から変えていかなければならないと。来年から長い目でと言うと語弊がありますが、1年で落ちてしまっただけは何もならないと思います。やはりJ2に上がった以上は下がることのない、そして中盤くらいにいたい、松本山雅FCさんや初昇格のVファーレン長崎さんが今季J2で活躍されたように、1年2年3年としっかりと基礎を作って臨んでいきたいということが本音です。それは1年で上がれることに越したことはないですし、そういうつもりでやっています。年々パートナーの輪も徐々に広がっています。そして来年の目標は、Jリーグに上がった年よりも多いパートナー数を目指して活動にあたっております。また皆さんの協力がなければこのクラブは絶えてしまうと思います。今回のようにたくさん話をさせて頂いて、いろいろな意見を交換して、グラウンドで戦っている選手のために自分たちはやっていると思いますし、ここにお集まりの皆さんもサポーターとしてそうやってくれているはずで。そのことを考えると、選手はグラウンドで結果を出す、私たちは業務を推進する、皆さまは応援をしっかりとさせていただく、これらの三つの要素がしっかりと合わさることで、強いチームになっていくのではないかと考えています。

とにかく私たちは、ゼルビアは会社を継続させていくことが一番、そして未来の子供たちのために、一人でもトップチームに上げられるような育成づくりをしていくことをテーマに、これからもやっていきたいと思っています。

話が長くなりましたが、早朝から本当にたくさんの皆さまに来ていただきまして、ありがとうございました。最後になりますが、シーズン報告会が12月15日にあります。なかには会費が高いといったご意見があるかもしれませんが、今年で引退する選手もたくさんいますし、他のチームに移籍してしまう選手もいると思います。どうか一緒に労をねぎらっていただければ幸いです。本日はありがとうございました。

(司会)

最後の挨拶をCURVA MACHIDAの大城代表から頂きます。

(大城)

皆さま今日は朝早い時間からお集まりいただきまして、ありがとうございます。またクラブスタッフの皆さまも朝早い時間から、ご多忙の中、お時間を頂きまして、ありがとうございます。カンファレンスを開催するにあたり、サポーター集会を開いたり、メールで皆さまからのご意見をいただき、それらをまとめる作業を担っていたわけですが、皆さまの熱い気持ちであつたりご意見をまとめていくなかで、こういったサポーターの熱い気持ちや声といったものが、FC町田ゼルビアというクラブを動かしていくんだな、ということを実感してきました。

このサポーターの声にはいろいろな意見がありまして、なかには嘆願書を提出するにあたり、百人百様であつたり、相反するような意見もあつたりします。ただ、クラブを思う気持ちというもの一つだと思います。今日、カンファレンスの際にクラブから返答をいただいた中で、特に来シーズンに向けてJ2から1年で降格しないクラブの基盤を作り上げていくという声を頂けたことは、大きなことだと思います。それを支えていくために、我々サポーターもいろいろと個人の気持ちはあると思いますが、基盤作りのための1年をサポートしていければというふうに思います。

やはり、昨年や今年にはいろいろと反省があつて、その反省を生かすための改善であつたり、変えていかなければいけないことがあつたと思います。ただ、目標や理念といったものが、クラブ側として決して変わることなく、ぶれないようにしていただければ、そこに向かってサポーターも支えていけると思うので、その理念であつたり来年のチーム作りといったところの意見を聞かせていただけたことは、今日のカンファレンスでは大きかつたと思います。

クラブとしては契約更新の時期ということで、話せる事が限られ、難しい時期ではありましたが、この時期にサポーターの気持ちを伝えたい、という目的の上でのこの時期での開催という理由もありましたが、なかなか意図した回答が聞けない部分はあつたかと思います。しかしながら、クラブスタッフの皆さま、フロントの皆さまにはこの時期に開催した意義については、真摯に受け止めて頂いたものと思っています。また、カンファレンスというかしこまった席では、言いにくいこと聞きにくいことは、この後スポンサーであるHUB町田さんでの懇親会でストレートに話していただけたらと思います(会場笑)。

来年は節目の25年、守屋相談役や亡き重田先生が作り上げてきた20年、下川社長が受け継いだ5年という年になります。次の25年が、クラブとして発展していけるように、サポーターもクラブと一つになって進んでいけるようにしたいと思います。引き続き皆さまのサポートのほうをお願いします。